

石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ <https://www.senshu-u.ac.jp/isinomaki/>石巻専修大学
広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)本創立40年を
迎えます

網地島紹介 サイト作成

観光客の誘致目指す

経営学部・益満環ゼミでは学生の視点で、石巻市牡鹿半島沖にある網地島に観光客を呼び込むため、情報通信技術はどのようあるべきかを研究・考察している。4年次生は昨年、石巻市の「ネット・オープンデータを活用した「網地島ポータルサイト」の作成に取り組み、今年4月から公開している。

経営・益満ゼミ

インスタ映えする場所を探索する
2年次生＝6月9日

こめぼこ 第2弾

楽天公式戦で完売

経営学部の杉田博ゼミが商品化に協力した揚げかまぼこ「こめぼこ」第2弾が7月7、8の2日間、プロ野球の楽天イーグルス一軍公式戦が行われた楽天生命パーク宮城(仙台市)で販売され、計1200パックを完売した。

石巻の魅力伝える ラジオ番組を制作

経営・舩井ゼミ

経営学部・舩井道晴ゼミは昨年「Date fm」(エフエム仙台)のラジオ番組「Hope for MY AGI」(毎週月曜日12時～12時25分)の制作を手がけている。取材、編集に携わったのは同ゼミの「メディアコンテツ制作プロジェクト」に所属する2年次生の渡辺満帆さん(岩手県大東高)、木村真陸さん(山形県山形工高)、佐藤優輔さん(宮城県佐沼高)の3人。今年度は「コンテンツ開発による地域情報の発信と地域活性化」をテーマに3回の放送を担当する。

5月25日、石巻駅近くの立町商店街にあるこけし工房「Tree Tree Ishinomaki」を取材。店主の林貴俊さんに話を聞くと、もに、新たな名産品として売り出し中の石巻こけしの絵付けを行った。初回は7月30日にオンラインで放送される。



笑顔で販売するゼミ生たち＝7月7日

開いている。昨年の夏、現4年次生がフェリーで網地島に渡り、歩いて島の魅力を発信した。サイトには島の「文化・歴史情報」「イベント情報」「船便、島内のバス情報」「宿泊施設などを紹介している。佐藤恭平さん(経営4・岩手県一関第二高)は「徒歩での調査はきつかったが、歩かなければ気がつかない魅力が数多くあった。島の各所にある海を一望できる絶景スポットから、透き通る美しい海の色を見てほしい」と話した。

森脇さんが優秀賞

自動車技術アイデアコン

学生が自動車に関する新技術を提案する「第28回自動車技術独創アイデアコンテスト」(主催・公益社団法人自動車技術会東北支部学生自動車研究会)の高専・大学の部で、理工学部機械工学科の森脇(もりわき)さんが優秀賞を受賞。6月9日、宮城トヨタ自動車本社(仙台市)で表彰式が行われた。このコンテストは自動車技術、省エネ、環境、交通安全システム、安全面などの独創的なアイデアを募集し審査する。森脇さんは、冬道の運転は路面が濡れているのか凍っているのか分からず、場所によって積雪量も異なるため、危険性が高まると考えた。こうした状況を解決する方法として、路面状態が自動的にわかるシステムを、自らが作製したポスターを使いアピールした。



賞状を持つ森脇さん。右がアイデアをまとめたポスター

「多くの方に商品を知ってもらえることができた。たくさんの人に声を掛けてもらい、先輩たちが昨年からの積み重ねでできたことが結果していることを実感した」。日野将秀さん(経営2・宮城県田尻さくら高)は「完売できた。試合前には球場内のオーロラビジョンでPRを行った。三浦雅章さん(経営2・岩手県水沢工高)は「1人入りとプレーンが3個ずつ入った6個入り(税込400円)を販売した。当日はゼミ生と石巻北高校、宮城県水産高校の生徒たちが、ブースでの販売と球場内の宣伝を分擔。試合前には球場内のオーロラビジョンでPRを行った。

「毎日、仙台市から自動車通学しており、日ごろからこのような装置があればいいなと思っていたことを発表した。今後降、人の手で生物の生息できる環境を整えられたことを知ることができた。今後は環境保全の観点から、海と植物の関係について深く学んでいきたい」と語った。

藤本凛さん(福島県会津学鳳高)は「自然環境に興味があったので、今回の実習は楽しかったです。初めて見た人工干潟に驚いた。生態系を豊かにする環境や方法について学びたいと考えており、得るものが多い実習だった」と話した。

食環境学実習 干潟の生態調査



人工干潟で生物を調査する藤本さん(左)

理工学部食環境学科の「食環境学実習Ⅰ」の野1年次生を対象とした「外実習」が6月16日、石巻市の万石浦で行われた。参加した約20人は、玉置仁教授の指導を受けながら、東日本大震災の被害を受けたかつて干潟だった場所と、震災後に造成された人工干潟の生物相と環境の違いを観察。2カ所を比較し、アサリをはじめとした生物の生育環境について理解を深めるとともに、環境保全の重要性を学んだ。

加藤清楓さん(岩手県金ケ崎高)は「人工干潟でアサリなどの生物がたたく確認でき、震災以降、人の手で生物の生息できる環境を整えられたことを知ることができた。今後は環境保全の観点から、海と植物の関係について深く学んでいきたい」と語った。